

第4回 チャリティー公演

# 黒柳徹子講演と 漆原啓子ヴァイオリンコンサート

2009. 7. 19(日) 14:00開演

岡山シンフォニーホール



主催 (社)教育振興ノートルダム清心会  
協賛 ノートルダム清心女子大学

後援

岡山県、岡山市教育委員会、朝日新聞社岡山総局、山陽新聞社、RSK山陽放送  
TSCテレビせとうち、RNC西日本放送、OHK岡山放送、KSB瀬戸内海放送

## ごあいさつ



ノートルダム清心女子大学

学長 高木 孝子

第4回チャリティー公演を、神様の豊かな祝福に包まれ、多くの方々のご協力のもとに開催できますことは、私どもの大きな感謝と喜びでございます。

このたび、チャリティー公演として黒柳徹子氏の講演と漆原啓子氏のヴァイオリンコンサートが開催されますことは、同窓会にかける皆様の強い意気込みが遺憾なく発揮されたもので、大変頼もしく、嬉しゅうございます。

お二人の先生のご好意によるこのチャリティー公演が同窓生お一人おひとりにとって、愛と奉仕の精神に基づく「ノートルダムスピリット」を心に深く刻む機会となり、同窓会が、母校の創立以来長年にわたって惜しみないご尽力をいただいている多くの方々とともに、国際社会の向上発展に貢献していかれるよう期待しています。

最後になりましたが、本日ご臨席賜りましたお二人の先生をはじめ、皆様のお心づかいに深く感謝し、ご健勝とご多幸をお祈りいたしますとともに、同窓会への一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



(社)教育振興ノートルダム清心会

会長 長野 育子

本日は、ようこそお越しくございました。

私たちの母校ノートルダム清心女子大学は、キリスト教精神に基づいた教育理念のもと、広く社会に開かれた大学として、1949年に創立され、今年60周年を迎えます。その時代、時代において多様な価値観が交錯するなかで、母校は、時の流れにおしながされることなく、リベラルアーツカレッジとしての独自性を保ちながら、新しい時代の要請に応え続けてまいりました。このことは、母校の人間教育に対するひとかたならぬ情熱と強い信念のたまものであるとともに、私たち卒業生の誇りとするところ です。

さて、本日、黒柳徹子氏と漆原啓子氏をお迎えし、第4回チャリティー公演を開催できますことを心より嬉しく存じます。皆様もご存知のように、黒柳徹子氏は、ユニセフ親善大使としてアフリカ、アジアなどの発展途上国を訪問し、福祉活動に従事しておられます。本日のご講演では、親善大使として訪れた先々で会った子どもたちの状況などをお話しくださいます。また、漆原啓子氏は、東京藝術大学付属高校在学中、第8回ヴィニャフスキ国際コンクールにおいて、最年少かつ日本人で初めて優勝されたことで大きな話題となった方で、デビュー以来、常に第一線で活躍されています。

私たちは、ノートルダム清心女子大学の同窓生として、愛と奉仕の精神に基づいた活動を続けてまいりました。この度のチャリティー公演の収益金は全て、黒柳徹子氏が関係するユニセフと、緒方貞子氏が名誉会長をつとめられる難民教育基金にさしあげるようになっております。本日、このチャリティーにご協力くださった皆様のご厚志と、出演者、開催関係者の熱意が、未来を担う世界中の子どもたちの支援となりますよう祈りながら、ご挨拶にかえさせていただきます。

# Program

## 第1部

### 漆原啓子ヴァイオリンコンサート

- |                                  |                         |
|----------------------------------|-------------------------|
| 1. クライスラー                        | プニャーニの様式による<br>前奏曲とアレグロ |
| 2. グルック                          | メロディー (妖精の踊り)           |
| 3. ヴィエニヤフスキー                     | スケルツォ・タランテラ             |
| 4. チャイコフスキー                      | なつかしい土地の思い出             |
| 5. ノヴァチェック                       | 無窮動                     |
| 6. サラサーテ                         | アンダルシアのロマンス             |
| 7. サン＝サーンス                       | ハバネラ                    |
| 8. クライスラー                        | レチタティーヴォとスケルツォカプリス      |
| 9. ラフマニノフ                        | ひな菊                     |
| 10. ガーシュイン                       | サマータイム                  |
| 11. ガーシュイン<br>(9、10、11、ハイフェッツ編曲) | そんなことはどうでもいいさ           |
| 12. クロル                          | バンジョとヴァイオリン             |
| 13. ワックスマン                       | カルメン幻想曲                 |

●●● 休憩(約20分) ●●●

## 第2部

### 黒柳徹子講演

『私が会った世界の子どもたち』



## 黒柳徹子 女優・ユニセフ親善大使

### Profile

東京・乃木坂に生まれる。父はヴァイオリニスト、NHK交響楽団のコンサート・マスター。

トモエ学園から香蘭女学校を経て東京音楽大学音楽科を卒業しNHK放送劇団に入団。NHK専属のテレビ女優第1号として活躍。その後、文学座研究所、ニューヨークのMERRY TARCAI (メリー・ターサイ) 演劇学校などで学ぶ。アメリカのテレビ番組、ジョニー・カーソンの『ザ・トゥナイト・ショー』など、多くのテレビ番組に出演。また、タイム、ニューズウィーク、ニューヨークタイムス、ヘラルドトリビューン、ピープルなどに日本の代表女性として紹介される。日本で初めてのトーク番組『徹子の部屋』は34年目をむかえる。著作『窓ぎわのトットちゃん』は760万部というベストセラーの日本記録を達成。アメリカ、イギリスなどの英語圏、ドイツ、ロシア、中国語圏、アラビア語圏など世界35ヶ国で翻訳される。日本語版の印税で社会福祉法人トット基金を設立。プロのろう者の俳優の養成、演劇活動、手話教室などに力を注ぐ。ユニセフ(国連児童基金)親善大使としてアフリカ、アジアなどを訪問。メディアを通して、その現状報告と募金活動などに従事。日本ペンクラブ会員。ちひろ美術館・東京館長。東京フィルハーモニー交響楽団副理事長など。

### 父の海水パンツ——トモ工精神

父が57歳で亡くなって25年立つが、いまでも私は父と対話しない日はない。

父を思い出すたびに過ぎ去りゆく豊かな時代の息吹と郷愁を感じずにはいられない。

物心ついたときから、私は父の生活を観察していたような気がする。1960年代の初め頃、30歳そこそこの父は台湾の新営という小さい町で気鋭の抽象画家として制作に勤しんでいた。毎朝早くから多種多様の友人が家に来て父が目覚ますのを待っていた。父が起きるとまず広い庭に建てたハト小屋に入り、ひとしきり数百羽の伝書バトの世話をしてから、入れ替わり立ち替わりやってくる友人たち(ハトキチから芸術家まで)と一日中話を花を咲かせていた。夜は夜で、家でのダンス・パーティーにまた多くの友人が詰めかけ(居間でダンスができるよう、フロアは父がデザインした大理石を敷き詰めていた)、そこでも父は主役だった。深夜になって、ようやく父は創作にとりかかった。

そして日に何回も大きなオランダ製のスピーカから流れてくるハイフェッツやエルマンのヴァイオリンの音に合わせてヴァイオリンを弾いた。テレビン油の匂いでむせび返る父の画室で私はひとり黙々と、父が数か月遅れに日本から届く「芸術新潮」から切り抜いた名画のスクラップ帳をめくっては、レンブラント、アングル、ゴッホ、マネ、ルソーの世界に慄き、それらの至福の楽園が私の生活の一部となった。

自分の創作と趣味そして友人にほとんどの時間を取られていた父は私たち子供には深く立ち入った干渉をすることがなかったが、食卓でよくフォークで刺したじゃがいもでダンスを披露しては私たちを笑わしてくれた。(大きくなってから、それはチャップリンのまねだったことがわかったが)折しも台湾は中国からやってきた蒋介石による恐怖政治統治下の時代の真ただ中だった。台湾語禁止令により、中国語しか使うことを許されていなかったのに、我が家では日本語が両親の共通語だった。

絵描きというだけで官憲が監視の目を光らせるような時代の圧力をもものともせず、自由奔放に生きていただけでなく、ひょうきんな性格で、日々面白い世界を生み出していった父を、自分の父ながら異星人くらいにまわりのどの大人とも違うように感じていた。

やや大きくなるにつれて、父をそういう異星人たらしめていた父の生い立ちが少しずつ理解できるようになった。

台湾の台南の大地主の家の生まれの父は、小さい時から一族が東京の柿の木坂などに建てた洋館で暮らしていた。日清戦争の後、台湾が日本に割譲された30数年経った頃のことだった。

小さい時から、父だけが、兄弟の中でも一番おしゃべりで、ひょうきんだが、じっとしていない子供だったので、ハイカラな父親が探しにさがして入れた小学校がトモ工学園だった。その後玉川学園の途中、終戦間際に14歳で一人で台湾に戻ったので、父の個性を育んだのはトモ工学園で受けた自由でユニークな教育だったと思う。

しかし、子供の私たちに父が時々食事の前におまじないのように歌う「食事の歌」や、授業が電車の教室の中だったことや、水泳の授業はみんな真っ裸だったことなど、父の語るトモエでの生活の思い出が父一流のほら吹きではなく、本当のことだったことがわかったのは、私が中学校のときに日本に移り住んで、黒柳徹子さんの「窓ぎわのトットちゃん」を読んでからだった。

そして、ついにトットちゃん本人からさらに父の思い出を聴く幸運に巡り会えたのだった。

十数年前から、岡山での黒柳徹子さんの公演は欠かさず拝見してきた——「ニノチカ」、「幸せの背くらべ」、そして、「喜劇キュリー夫人」。そのつど楽屋に呼んでいただき、親しくあいさつさせていただいたが、数年前「喜劇キュリー夫人」の最終日に、私の病院に黒柳さんから電話がかかり、「ずっとあなたのお父さんの絵を見てみたいと思っていたが、今日お邪魔してもよろしいかしら？」と。

昼と夜の二公演を終え、私の父の記念館に到着されたのが夜の10時過ぎ、ハードな舞台の後の疲れも見せずに父の絵を感慨深げに一枚一枚見てから、私の患者さんの船屋が特別に握ってくれた寿司を一桶ほとんど、続けて大好物ということで、家内が用意したモンブランを3つもペロリと召し上がった。大女優のエネルギーのすごさの一端を垣間見たような気がした。

その間も私と旧知の友人のようにおしゃべりが盛り上がり、黒柳さんの旺盛な好奇心とあらゆる話題に対するスーパーコンピュータなみの記憶の正確さに舌をまいた。そして、「あなたのお父さんがよく本を読んで聞かせてくださったのよ」と私の知らなかったトモエでの父のことをも教えてくれた。そこで、私も一つ父から聞いた思い出を彼女に語った。「ある日、プールの授業の時に父が恥ずかしくて海水パンツを履いていったのを、徹子さんが後ろに回って、ここではパンツは履かないの!と父のパンツを脱がしたそうよ」。それを聞いて、黒柳さんは「本当に? 本当に私が脱がしたの?」と何回も何回も大声を上げて笑い転げた。

その日、黒柳徹子さんが劇団の仲間たちと一緒に小さいミニバンに乗って、我が家から次の日の公演地四国へ向かったのが、夜の2時過ぎだった。

暗闇に消えていく車の影を見送りながら、父と黒柳徹子さんの共通の雰囲気私の中で膨らんできた。それはまさしくトモエの精神からきたものだった。トモエ学園の校長、小林宗作先生の子供の個性を尊重した教育が二人の人生に対する飽くなき冒険や人間への真っ直ぐな愛情の心を育てたに違いないと思った。そして、それまで気がつかなかったが、私も幸運なことに小林先生の精神の恩恵を受けて今に至っていることをも。

## Program Notes に代えて

漆原啓子さんは言うまでもなく、日本を代表する名ヴァイオリニストの一人であるが、彼女がさらに抜きん出ているのは、18歳から今日までソロだけではなく、室内楽、オーケストラ、レコーディング、教学のすべての分野において、一流の活動を25年以上続けてきたことだ。それは、高い技術と才能がなくては、もちろん務まらないことだが、なによりも、他の音楽家や関係者と調和した関係を彼女が楽しんで築ける人だからだ。

つまり、漆原啓子さんは、彼女の音楽と同じようにピュアで、暖かく、そして、気さくで、面白い方なのだ。

8年前に、私のところでデビュー20周年記念コンサートをしていただいたのが最初の親しいお付き合いの始まりだったが、とてつもなく壮大なプログラムを完璧に弾ききって、いざ遅い夕食へお連れしようとしたら、車の後ろの座席でぐったりしている彼女を発見した。それでも、「大丈夫、大丈夫」と言いつつ、レストランでみんなが食事を終えるまで付き合ってくれたのだったが、なんと彼女はその後からひどい高熱を出していたのだった。

その時に、私は漆原啓子さんの並はずれたプロ根性とまわりの方に対する、すぎるくらいのやさしい心配りに脱帽し感嘆した。それから私は図々しくも、彼女のがんばる性格と人の好さに付け込んで、岡山で、普通のヴァイオリニストではまず引き受けないような超ハードな内容のコンサートの数々をお願いして(押しつけて?)きた。

今日のプログラムもその流れをさらに押し上げたものとなっている。

すなわち、

13曲すべてがヴァイオリンの超名曲だが、ほとんどがヴァイオリンという楽器のすごさを知り尽くし、しかも作曲の才能のある名ヴァイオリニスト(クライスラー、ヴィエニヤフスキ、サラサーテ、クロル、ノヴァチェック、ハイフェッツ)たちによる作曲や編曲なので、その中にヴァイオリンのあらゆる超絶のテクニックが網羅されていること。

もちろん、どの曲も何回も繰り返し聴きたくなるような美しい旋律を持っていること。

13曲の曲想、緩急、雰囲気を考え抜いて曲順を決めたこと(中間に置いたクライスラーの「レチタティーヴォとスケルツォカプリス」という恰好いいヴァイオリン独奏の曲は、より奏者の内面を映し出そうと選んだものだが)。それによって、聴く方は13曲が宝石を鑲められたきらめく王冠のように感じられ、演奏する方は、エベレストに登頂したかのような達成感を感じてもらうこと(最後のとどめに、史上最強のヴァイオリニスト・ハイフェッツの十八番だった、最難曲のワックスマンの「カルメン幻想曲」を置いたし…)そして、…え?やはり私は漆原啓子さんをいじめるのがクセになっているようすって?!…。

### 作曲者データ

作曲者	生没	国	作曲者	生没	国
グルック	1714~1787	ドイツ	ラフマニノフ	1873~1943	ロシア
サン=サーンス	1835~1921	フランス	クライスラー	1875~1965	オーストリア
ヴィエニヤフスキ	1835~1880	ポーランド	ガーシュイン	1898~1937	アメリカ
チャイコフスキー	1840~1893	ロシア	クロル	1901~1980	アメリカ
サラサーテ	1844~1908	スペイン	ワックスマン	1906~1968	ドイツ
ノヴァチェック	1866~1900	チェコ	ハイフェッツ	1901~1987	ロシア

歯科医・チェリスト・音楽プロデューサー

三船 文彰

# 漆原 啓子 ヴァイオリニスト

## Profile

1981年、東京藝術大学付属高校在学中、第8回ヴィニャフスキ国際コンクールに於いて最年少18歳で日本人初の優勝と6つの副賞を受賞し、翌年、東京藝術大学入学と同時に本格的演奏活動を開始。

1986年、ハレー・ストリング・クアルテットとして民音コンクール室内楽部門で優勝並びに斎藤秀雄賞を受賞。

これまでに国内外での演奏旅行、TV出演、海外主要音楽祭、木曾音楽祭、宮

崎国際音楽祭、軽井沢国際音楽祭に出演のほか、オーケストラのソリストとして各国を廻り賛辞を浴びる。

また、V.スピヴァコフ、E.ルカーチ、J.ピエロフラーヴェク、F.ライトナー、H.シフ等の指揮者や、ハンガリー国立響、スロヴァキア・フィル、ウィーン放送響等と共演。日本国内でも主要オーケストラとの共演やリサイタル活動のほか、室内楽でも高い評価を得ている。

2006年11月より一年間をかけ、東京・HAKUJU HALLにてデビュー25周年記念全6回コンサートシリーズを行い、毎回多彩なゲストを迎え好評を博した。

CDも今までに数多く発売しており、最新アルバムは2007年9月に小林道夫氏との『J.S.バハ:ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ全集BWV1014-1019』をEXTONレーベルよりリリース。

17歳の若さでデビューして以来、常に第一線で活躍を続け、ヴェテラン・ヴァイオリニストとして、今、まさに成熟し、大きな花を咲かせている。後進の指導にも当たり、東京藝術大学を経て、現在は国立音楽大学客員教授を務める。

漆原の常に安定した高水準の演奏は、音楽ファンのみならず、指揮者、オーケストラ・メンバー等の音楽家の間でも非常に高い信頼を得ている。



# 林 絵里 ピアニスト

## Profile

東京生まれ。4才よりピアノを始める。

1977年、第31回全日本学生音楽コンクール、奨励賞受賞。

桐朋女子高校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。

ピアノを樋口恵子、弘中孝、故中島和彦の各氏に師事。

卒業後、同大学に於いて、2年間、弦楽科伴奏研究員を務める。

1986年、第8回チャイコフスキー国際音楽コンクールのチェロ部門で最優秀伴奏者賞を受賞。1986年より、日本国際音楽コンクールヴァイオリン部門の公式ピアニストを務める。1991年ミュンヘンにて、ワルター・ノータス氏に師事。

これまでに、チェリストのステイブン・イッサーリス、ヴァイオリニストでは、エドアルド・メルクス、ドン・スク・カン、バルトゥミオ・ニジョー、ヴィヴィアン・ハグナー、バベル・バーマン、エリック・シューマン、徳永二男の各氏をはじめ、数多くの演奏家と国内外のリサイタルで共演。

また、NHK交響楽団メンバーとの室内楽演奏や、NHK FM、CDの録音なども行っている。

現在、桐朋学園大学音楽学部嘱託演奏員。



# 愛と奉仕の活動



## 奨学事業

県内の女子大学生に、奨学金を給付。

## チャリティー事業

難民教育基金

国連児童基金  
(ユニセフ)



## ゆめ文庫

点訳絵本を製作・貸出。



## エンジェル会

旭川荘でのボランティア活動。

## 生涯教育支援

文化講座

文学  
着付け  
ペン習字  
謡曲・仕舞



## 奨学生支援バザー

大学祭と同時開催。

# 難民教育チャリティー

## 第1回



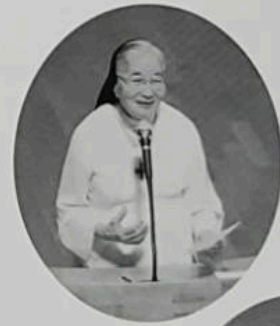
ドナルド・キーン

## 第2回



日野原重明

## 第3回



渡辺和子



山形由美



松本和将



久保陽子



創立 60 年  
ノートルダム清心女子大学



大学院第13回学位記 学部第57回卒業証書・学位記授与式